# そのひばなし！

ruru_906

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

き〇ら系アニメみたいな女の子たちのなんでもないお話

※セリフのみの書き方が合わない人はブラウザバック推奨

# 目　次

お正月！ ―― 1
節分！ ―― 4

# お正月！

「あけましておめでとうございます！」
「おめでとうございます～」
「え、今更？もう1月終わるぞ」
「いいじゃん！私の心はいつだってお正月なんだよ！」
「それにねりんちゃん、中国では昨日までお正月休みだったんですよ？だからまだお正月気分でも大丈夫♪」
「それなら、まぁ・・・？いや、どっちにしろ明けてんじゃん」
「まぁまぁ♪」
「おい」
「とりあえず！わたしはお正月っぽいことがしたいんだよ！」
「はぁ・・・お正月っぽいことなぁ、羽根突きとか？」
「羽根突き！」
「おもちとか美味しいですよね♪」
「おもち!!」
「で？そういうお前は何がいいんだ？」
「ん～、いろいろあって迷うなぁ～」
「早く決めろよー」
「待って!!え～っと、そうだ！凧揚げ!!凧揚げしたい！」
「凧揚げか、でも凧なんて無いだろ？」
「ふふ～、なんとここに丁度いい感じの凧が～」
「あるんだ・・・」
「やったぁ！さすがひまりちゃん！じゃあ早速やろ!!」
「じゃ、公園行くか」

～～移動中～～

「着いた！」
「では、やりましょ～♪」

「電線の方には飛ばすなよー」
「分かってるって！それ～!!って、あれ？」
「あー、風が弱かったか」
「え～、じゃあ凧揚げできないの～!?」
「まぁこれぱっかりはなぁ・・・ん？ひまり、何してるんだ？」
「ふふふ、このひまりともあろう者が風如きに負ける訳にはいかないのですよ・・・！」
「あ～スイッチ入っちゃったか～」
「ちょっとだけ待っててくださいねももかちゃん、絶対に天高く凧を揚げて見せますから!!」

～～スーパーひまりタイム～～

「くっ、ここまでしても揚がらないなんて・・・」
「落ち込まないでひまりちゃん、わたしは楽しかったよ！」
「まさか特別高度工作車（巨大な扇風機の付いた特殊車両）まで持ち出してくるとは・・・」
「さすがひまりちゃんって感じだよね！吹き飛ばされないようするのが大変だったよ～」
「ごめんなさい、ももかちゃん。私また勝手にムキになっちゃって・・・」
「全然！ホントに楽しかったんだから！」
「ももかちゃん・・・！」
「そんなことよりもさ！わたし、お腹空いちゃった！」
「そうだな、ほらひまりも言ってたろ？お正月といえばおもちだって」
「・・・そうですね、凧揚げは上手くいきませんでしたがお正月はそれだけではないですもんね♪」
「よっし！そうと決まれば帰るか！ももかが動けなくなる前に」
「え～！なんでわたし!?」
「ん？子どもってすぐ遊び疲れて寝ちまうだろ？」
「そんなに子どもじゃないよ！」

「そうか～？」
「もう！りんちゃんの意地悪！」
「ふふっ、では最っ高に美味しいおもちを用意しますね♪」
「あっ、わたしきな粉がいい！」
「あたしは砂糖醤油かな」
「納豆とかもいいですよね～」
「えっ、納豆？」
「はい♪」

～～終～～

「そうだ、今度一緒に羽根突きやらないか？」
「え？なんで？」
「いや、なんでもない…」

# 節分！

「今日は2月3日！ということは～？」
「節分です！」
「そうだな」
「ということで、はいっ！」
「お、鬼のお面か。懐かしいな」
「りんちゃん着けた～？じゃっ行くよ～！」
「行くって何を・・・ って痛っ痛ぇ！」
「鬼は外～！」
「おいお前、っ痛いからやめろ！」
「福は内～！」
「あーもうやめろっっってんだろうが!!」
「あっ痛っやめっ、ごっごめんなさい～！」

～～～

「はぁ、全く・・・」
「」
「つかひまりも横で笑ってないで止めてくれよ」
「2人とも楽しそうだったのでつい♪」
「あたしは痛かっただけなんだが」
「え～？でもとってもいい笑顔でしたよ？」
「それはほら、あれだよ。笑顔ってのは本来攻撃的な表情だって言うだろ？」
「ふふふ、りんちゃんってば照れなくていいんですよ」
「や、だから本当にそんなんじゃ「そうだよりんちゃん！」って復活しやがったかこのやろう」
「ふっふっふっ、この程度でわたしに勝ったと思わないことだね！」
「もともとお前のせいだろ？」
「えへへ～」

「まあいいや、で？結局豆投げたかっただけなのか？」
「あ！えっとね、やりたかったっていうのもあるけど、それだけじゃなくて・・・、えっと、その」
「どうした？柄にもなくごにょごにょと」
「うーん、これでもダメか～」
「ん？なんだって？」
「なんでもない!!」
「そうだ！ひまりちゃんもやってみて！」
「よ～し、任せてください♪」
「一体何を・・・」
「りんちゃん！お手です！」
「は？」
「ほら、お手ですよ。お手！」
「えーっと、ひまり？大丈夫か？ももかが移ったか？」
「りんちゃんそれどうゆう意味!?」
「大丈夫、私は正気ですよ♪」
「いやそれダメなやつじゃ・・・」
「さぁりんちゃん、お手！」
「あーもう、やればいいのか？ほら」
「わ～りんちゃんいい子ですね♪」
「はぁ・・・ もうなんなんだよ、恥ずかしい」
「やった！私やりましたよももかちゃん！」
「お～！さすがひまりちゃん！」
「ふふふっ♪」
「あーえっと、結局何がしたかったんだ？」
「りんちゃん、それはね！」
「恵方です♪」
「恵方？恵方巻き食べる時のあれか？」
「そう！それでね今年の恵方は南南東の・・・ なんだったっけ？」
「南より、ですね。なのでほぼ南です。」
「だからね！それにちなんでりんちゃんに〝なんなん〟って言わせよ

うゲームをしてたんだ！」
「あー、それであたしが困りそうな事をしまくって来た訳か」
「そうなの！でも結局ひまりちゃんに負けちゃったけどねぇ、あはは」
「ふふふ♪勝ちました♪」
「なるほどなるほど、ははは」
「りんちゃんも楽しかった？またやろうね！」

「……　ああ楽しいさ、これからお前にお仕置きするのがなぁ！」
「え～!?なんでわたしに!?勝ったのひまりちゃんじゃん！」
「どうせこんなのやり出すのはお前だけだろうが！」
「うわーん！ひまりちゃんも笑ってないで助けて～！」

～～～

「」
「全く、ひまりも楽しそうだからって変な遊びに付き合うなよ」
「ん～？今回の言い出しっぺは私ですよ？」
「え？」
「りんちゃんのお手、可愛かったです♪今度はお座りとかどうですか？」
「～～～っ、おい！ひまり!!」
「きゃ～っ♪」